

# 清水探訪

第8回

【萱関の姥清水】(千畑地区 大坂)

美郷町は東に奥羽山脈、西に仙北平野が広がる、変化に富んだ地形の町です。そのため、水が湧き出る場所が扇状地の扇端部だけではなく山地や山沿いにも見られます。今回ご紹介する萱関の姥清水もそのうちの一つです。

姥清水は、真昼岳の主要登山口である赤倉口から800メートルほど南に位置しています。この付近は山林と水田の境になっており、姥清水のほかにも数カ所、水が湧き出る場所があります。湧水の規模は最大でも周囲6メートルほど。これらの小さな清水を水路で繋ぎ合わせて水量を増し、古くから近くの水田用水として利用してきました。水路を通った水は「萱関ため池」に流れ込み、貴重な農業用水として今も活用されています。

また、この姥清水の近くには、地元の人々が「十太夫堰」と呼ぶ溝（水路跡）があります。「十太夫」とは秋田藩の重臣「戸村十太夫」を指しているようです。秋田藩では初代藩主佐竹義宣の時代から新田開発に積極的だったため、藩の政策の一つとして作られた水路跡の可能性がります。

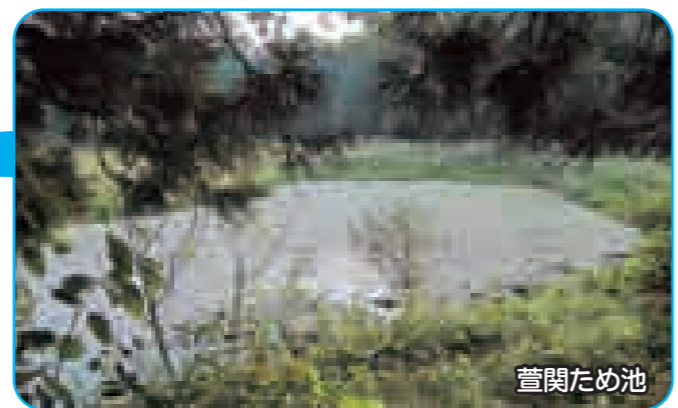
田藩の重臣「戸村十太夫」を指しているようです。秋田藩では初代藩主佐竹義宣の時代から新田開発に積極的だったため、藩の政策の一つとして作られた水路跡の可能性がります。

水田耕作には常時一定量の水が必要です。多量の降水では氾濫し、日照りが続けば枯れてしまう川の水とは異なり、常に変わらずコンコンと水が湧き出る清水はまさに「天の恵み」だったのでしょ。

清水を巡りながら、先人が味わったであろう労苦に思いを馳せ、必要な量の水を手に入れることができる生活のありがたさを実感してみたいかたがでしょうか。



萱関の姥清水ほか



萱関ため池

《清水は、地域みんなのものです。保存・保全に地域みなさんのご協力を》

問い合わせ ● 町商工観光交流課 観光班 ☎0187-84-4909

このほど、美郷町学友館主催の第32回読書感想文コンクールの審査結果が発表されました。同コンクールには平成20年度から「水に関する本の部」を設け、「水環境保全に取り組む町」美郷町の意識啓発の一環としています。今年度は町内の小学生から14点の応募があり、審査の結果、最優秀賞「名水の郷賞」に鎌田千尋さん（仙南東小学校4年生）の『水の大切さを知って』のほか、優秀賞3点、佳作1点が選ばれました。

### 【優秀賞】

- 『水の大切さ』 澁谷 音葉さん(仙南東小学校4年生)
- 『みんなの心で水をすくう』 佐藤 美波さん(仙南東小学校4年生)
- 『最初の一てきを求めて』 佐藤 碧さん(仙南西小学校4年生)

### 【佳作】

- 『水を守るために』 川本 摩耶さん(仙南東小学校4年生)

「水に関する本の部」以外の審査結果は17ページに掲載しています。

## 名水の郷賞

「水の大切さを知って」

鎌田 千尋さん  
(仙南東小学校4年生)



第32回読書感想文コンクール

「水に関する本の部」審査結果

# 水環境マイスター

平成22年度水環境マイスター登録者

- 飛澤 喜寛さん(本館) 佐藤 功さん(天神堂)
- 進藤 晃成さん(本堂西部) 高橋 隆次さん(旭町)



■水環境マイスター 飛澤 喜寛さん(本館)

## 水

環境マイスター養成講座の全課程を修了した飛澤喜寛さんからお話を伺いました。

「自分も、水の町に住んでいるので、水について学ぶ講座に興味を引かれ、今回受けてみようと思って参加しました。私たちが暮らす自然豊かな土地は水があるから成り立っています。第3回目の養成講座で秋田市河辺の森林を散策しましたが、こちらも水のきれいな土地でした。やはり自然環境と水は切っても切り離せない関係なのだと思います。個人的には第4回目を受講した『地下水を作ってみよう』が印象に残りました。地下水は雨水とも河川水とも海水とも異なります。その違いについて講師の

網田先生が実験を交えて説明してくれました。分かりやすく、面白かったです。美郷町は地下水で生活する人が多い土地ですから、ここにふさわしいテーマだったと思います。今年度の養成講座を受講してみて感じたのは、若い方の参加が少ないな、ということ。残念ながら自然環境や水質保全といった事柄に関心を持つ人が少ないのかもしれない。このような講座には、高校生くらいの学生さんにも積極的に参加を呼びかけてみて面白いのではないかと思います。」

水環境マイスター制度に関するお問い合わせは町住民生活課 環境安全班(☎84-4903)まで

## 水環境マイスター養成講座

水は森のおくりもの(第3回 9月4日)

秋田市河辺にある「森林学習交流館ブラザクリプトン」で、「水と緑のインストラクター」大石礼之輔氏による講話と施設内の森林散策・動植物の観察で、森林が地球環境に与えてくれる恩恵について学びました。受講者からは「ライフラインの原点が森林であることを改めて知った。森林の大切さを認識した」という声が聞かれました。

地下水を作ってみよう(第4回 10月9日)

秋田大学工学資源学専攻地球資源学専攻の網田和宏助教授を講師に招き、地下水について学びました。地下にある水にはミネラルなどの様々な物質が溶け出し、その土地ならではの水質を形成します。その様子を観察するために安山岩・石灰岩の薄片と粉末を水に入れて地下水に近い水を作り、それぞれのpH(※1)や導電率(※2)などを計測しました。受講者は気になったことを講師に尋ね、地下水について理解を深めた様子でした。

(※1) 酸・アルカリの強さを表す数値。  
(※2) 物質の電気伝導のしやすさを表す数値。この実験では導電率が高いほど多くの物質が水に溶け出したことを示す。



■地下水の成り立ちを再現する実験 写真右が講師の網田助教授